



令和4年8月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

ブダイの飼育を始めました

伊豆半島沿岸では、藻場が消失してしまう「磯焼け」が深刻ですが、原因の一つに、ブダイなど海藻を食べる魚による食害が挙げられています。しかし、こうした魚たちが実際に海藻を食べる様子を見る機会はあまりありませんでした。伊豆分場では、地元の白浜漁業管理運営委員会が磯焼け対策として駆除しているブダイを譲受け、飼育を開始しました。

7月12日刺網漁に同行し、捕獲したブダイ6尾を水槽に収容しました。通常、網で漁獲された魚は、ダメージを受けてなかなか餌を食べないものであり、生き残るかどうか心配していましたが、収容した翌日から海藻を食べ始め、3日後には水面まで浮上して、海藻を貪り食べるようになり、現在では研究員の手から直接海藻を食べるまでになっています。この食べっぷりを見ると藻場がなくなっていることも納得できます。



↑ 刺網による捕獲



↑ 飼育中のブダイ

マダイ中間育成終了、放流へ

6月7、8日から始まったマダイの中間育成は、稚魚が放流に適した大きさまで成長したことから、熱海市網代では7月15日、西伊豆町田子では21日に、放流する稚魚の尾数や大きさを計測する作業が行われました。

両地区とも、育成途中に一部の生簀で病気が発生しましたが、育成開始からの生残率は、網代では71%、田子では58%でした。

これらのマダイは、伊豆の各地先で適地である港内等へと放流されます。放流によりマダイの資源量が増大することを期待しています。



↑ 生簀上の計数作業(網代)



↑ 漁船から稚魚を放流(田子)

伊東地区でサメ忌避装置の説明会を開催

伊東・熱海地区の漁業者で組織する伊豆東部一本釣協議会では、針にかかったキンメダイがサメ等に食べられてしまう「食害」の対策を行っています。今回はサメの忌避装置の「海園」という商品を開発、販売している会社の方を招き、説明会を開催しました。

サメの頭部には微弱な電流を感知するロレンジャー二器官が備わっています。海園はこの器官を刺激する微弱な電流を発する装置です。今回は装置の概要から、効果的な使い方まで説明していただきました。説明会の内容を活かし、サメによる食害が軽減することを期待します。



↑ 説明会の様子



↑ 質問をする漁業者
壁にかかった装置が海園

8月の予定 ●関東・東海ブロック漁業士研修会(2日伊東市) ●キンメダイ太平洋系群資源評価会議(5日) ●マイワシ・マアジ資源評価会議(10日) ●県民の日「研究所夜間公開」(12日) ●潜水調査(石廊崎カジメ調査23日、稲取アントクメ調査25日) ●相模湾定置網漁漁況予測検討会(25日) ●キンメダイの人工ふ化・仔魚飼育試験

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。